

現代社会

第2問 問5 「13」

難民の定義にあてはまる事例を考える問題で、各学力層で差がついた

問5 展示を作成するうちに紛争などにかかわって多数の難民が発生したことに関心を持ったホリさんは、日本に避難した難民について出入国在留管理庁のホームページを調べた。難民条約における難民の定義に従って、出入国在留管理庁が難民として認定しなかった申請事例として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。なお、ア～ウはすべて出入国在留管理庁が公表している事例である。 13

ア

申請者は、A族であること、無宗教者であること、B教過激派組織であるCに本国政府のスパイと疑われ、拘束されて暴行を受けたこと、その後、自身に対してB教過激派組織Cから逮捕状が発付されたことなどから、帰国した場合、B教過激派組織Cから迫害を受けるおそれがあるとして難民認定申請を行ったものである。

イ

申請者は、A族であること、本国において、学生組合やA族の団体の会員として反政府活動を行ったこと、野党であるB党のメンバーとして組織化活動等を行ったこと、選挙の際に野党であるB党を支援したところ、警察に拘束されたことなどから、帰国した場合、警察及び軍から迫害を受けるおそれがあるとして難民認定申請を行ったものである。

ウ

申請者は、本国において、自身の事業のために銀行から融資を受けたが、銀行への支払いができなくなったため、銀行から訴えられ、逮捕されたところ、裁判により未返済分を返済することを条件に保釈されたにもかかわらず、逃亡したことから、帰国した場合、保釈を取り消され、収監されるおそれがあるとして難民認定申請を行ったものである。

出入国在留管理庁 Web ページにより作成。

- ① ア ② イ ③ ウ ④ すべて認定した事例である

第2問 問5 「13」

正解率	65.5%
SS70～75	94.5%
SS65～70	90.0%
SS60～65	87.8%
SS55～60	82.1%
SS50～55	73.1%
SS45～50	62.3%
～45	40.4%

 2023年度第1回ベネッセ・駿台
 大学入学共通テスト模試
 「現代社会」

受験者数:	53,029人
平均点:	46.5点
標準偏差:	14.9

現代社会

第2問 問5 「13」

難民の定義にあてはまる事例を考える問題で、各学力層で差がついた

結果分析

第2問の問5は、難民条約における難民の定義を理解したうえで、出入国在留管理庁に申請された実際の事例が難民の定義にあてはまるかを考察する問題で、各学力層で差がつかしました。

難民条約では、難民を「人種、宗教、国籍、政治的意見または特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にいと迫害を受けるおそれがあるために他国に逃れた人々」と定義しています。まずは、難民の定義について正確な知識が求められ、さらに、知識を身につけたうえで実際の事例と関連づけて考察することができるかが問われました。

指導のご提案

現代社会の共通テストでは、本問のように、学習した項目が私たちの社会のなかで実際にどのような事例としてあらわれているかを押さえることも重要です。これからの2か月半で実戦的な問題演習を重ねるとともに、既習事項を改めて整理しなおし、ニュースなどを通して現実社会との関係を確認することが大切です。

さらに、共通テストでは、図やグラフ、表、文章などの資料を読解して、知識と組み合わせ判断する問題が出されます。既習の知識のみでは解答できないこともあるので、限られた時間のなかで情報を整理し、問題に解答する練習を重ねることをご提案します。